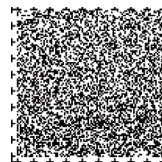


社会福祉法人 創文会
相談支援事業所 ハートピア出雲 情報誌「トピア」



Topia

第47号



<発行所>
相談支援事業所
ハートピア出雲

〒693-0014
出雲市武志町 693-6
Tel: 0853-23-2720
Fax: 0853-23-2721
E-mail: shien@heartpia.or.jp
ホームページ
<http://www.heartpia.or.jp>

年頭のあいさつ

理事長 山本順久

元日の雲の間から差し込んだ初日の出を拝んで新しい年が始まりました。

本年も変わりませず、どうぞ宜しくお願いいたします。

さて、昨年4月の障害福祉サービス報酬改定では、前年度の支援実績や利用者の状態を基にした抜本的な単価改定があり、経営に大きな影響を受けたところです。

特に、就労支援の分野においては、ワークセンターフロンティアが行う就労移行支援では過去1年間の就労定着者（一般就職して6か月経過した人）の人数により報酬単価が大きく異なることとなり、ますます就職先企業と連携を密にして就職者を増やすだけでなく職場定着を支援することが求められます。障がい者福祉事業所と地域社会や企業との更なる連携と協力がなければ就労支援の未来がないといっても過言ではありません。今、働く本人はもちろん、援助者の皆が理解し合ってがんばらないといけません。

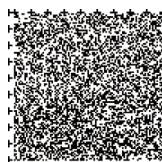
また、就学前幼児が通所する児童発達支援や学齢期の児童生徒が通所する放課後等デイサービスでは、事業所自己評価及び保護者による評価の実施とその結果及び改善策を公表することが義務化され、またインターネットによる事業所情報公開も始まって、障がい児療育の内容や環境などが客観的に評価されようとしています。

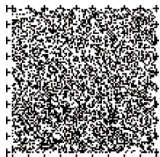
3年後の2021年の報酬改定では、いよいよサービスの質を踏まえた報酬設定が国において検討されており、ハートピア出雲では引き続き、個々の利用児の支援計画に基づいた小集団と個別による療育・訓練と、利用児の18歳までのライフステージに応じた福祉の支援をしてまいります。

そして、現在進行中の出雲市第5期障がい福祉計画では、障がいのある人が住み慣れた地域で安心して暮らせるよう地域生活支援拠点を整備することとなっています。特に、災害時などの緊急時の受け入れと対応を「見える化」することや、体験の機会と場をつくることは、行政はもとより市全体で取り組んでいくべき大きな課題です。関係する法人や各地域にある事業所のそれぞれの強みや特色を生かしながら、お互いに協力しあって「出雲らしい」ネットワークが構築できればよいと思います。

もくじ

- 年頭のあいさつ・・・・・・・・・・・・・・・・・・1 p
- 避難所体験ゲーム・・・・・・・・・・・・・・・・・・2 p
- 工事現場の看板イラスト作成・・・・・・・・・・3 p
- 苦情解決&研修会報告&新人職員紹介・・・・4 p





日頃の心構えが、災害時に活かされます

～避難所体験ゲームを行いました～

当法人では定期的に火災訓練や地震・洪水時等の災害避難訓練を行っています。また、災害復旧時に地域や困りごとがある方へ施設を有効活用していただけるように福祉避難所についても考えています。そこで、環境整備・防災管理委員会メンバーにて、【男女共同参画センターくすのきプラザ】の出前講座“避難所体験ゲーム（男女共同参画HUG）”を体験しました。また“避難所体験ゲーム”に関心をよせていただいた出雲市社会福祉協議会からもご参加いただきました。

ゲームでは、“男性”や“子ども”などの絵に合わせて、“年齢”や“猫を連れた女性”等の情報が書いてあるトランプ大のカードを使います。そのカード一枚を避難者一人として見立て、仮想のコミュニティセンターの平面図の部屋に振り分け配置します。また、仮設トイレやテント、着替えなどの物資も適切だと思う場所に配置し、避難所を作り上げていきます。社会福祉協議会職員さん、管理職、介護職、相談員、保育士、児童指導員、事務職、または男女や年齢等の立場が違っていると視点が違うことを実感しました。

机上の避難所の運営でも大変難しく、配慮すべきことや多くの課題が見えてきました。『平時にできないことは非常時にはなおさらできない』と講師さんの言葉が印象に残っています。受講した経験から話し合いや訓練を重ね、職場や地域に活かしたいと思います。

参加した職員の感想

- ・避難所が長期化になる場合、洗濯物を干す際に目隠しをするなど細かな配慮も必要。
- ・災害時、児童、障がい、高齢者、妊婦、DVなど様々な福祉ニーズが同時になることも課題。
- ・洗濯物を干す場、トイレの場所、女性に配慮したスペースなど様々なことに配慮し考える必要がある。
- ・炊飯班に男性の配置、女性を中心に運営することで細かい配慮ができる等、男女の役割を活かすことが重要。
- ・一人ひとりの状況に合わせて運営することの難しさを知った。

（環境整備・防災管理委員会 高橋悦子）

近年、全国各地で災害が起きています。特に大きな災害といえば、「阪神淡路大震災」と「東日本大震災」ではないでしょうか。そして、この二つの災害では、避難所生活が長期化し、女性や子どもが様々な困難な目に遭われた事が分かりました。

このことから出雲市では、いざという時、女性や子ども、高齢者、障がい者、外国人など、様々な人に配慮した避難所を運営できるよう、（注1）避難所体験ゲーム（男女共同参画HUG）を使って「安全・安心な避難所づくり」の啓発を行っています。

今回、ハートピア出雲の職員さんとこのゲームを行いました。さすが福祉の現場で働いていらっしゃる皆さん。一人一人の事情に丁寧に向き合う姿勢に頭が下がりました。

東日本大震災以来、「平時にできないことは非常時にはなおさらできない」と言われています。日頃からお互いを思いやる気持ちが、災害時での配慮につながります。

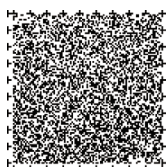
まずは身近なところから、人への思いやりを考えてみませんか？



（注1）【避難所体験ゲーム】

カードを避難者一人に見立て、避難所となる平面図にどれだけ適切に配置できるか、また、避難所に必要なスペースを配置するゲーム。

（文：出雲市男女共同参画センター所長 森脇 都多江）



看板イラスト作成で社会とのお付き合い



昨年(2022)の11月、暑くもなく寒くもない丁度心地よい小春日和の日(2022.11.11)に多伎町に私が描いた看板イラストを観にフロンティア職員さん(2022.11.11)と行って来ました。

これは「C&N」さんが仲介し、工事現場に設置する看板のイラスト作成を数年前からワークセンターフロンティアで承っていてこの度、高速道路の山陰道建設を宣伝するための看板づくりを受注しました。

看板イラストはフロンティア利用者数名によるコンペ形式で作成者が決まるので、はじめのラフイラストの段階では私もただただイラストを描くことにのみ集中していました。幸運にも採用が決まり、そこから清書して彩色を施し、文字をレイアウトしました。もちろん先方との何度かのやりとりで修正指示もありました。

ようやく無事に完成し実際に看板が設置されている現場のひとつが多伎町口田儀の国道9号線沿いなので、足を運んでみることにしました。

看板の実物(幅2メートル高さ90センチ)を観た第一印象は正直「思っ

てたより小さいなあ」というものでした(すいません)。それは屋外で観るので周囲の山々などの風景からしたらそう感じるのも自然なのかもしれません。それでも、自分の描いたものがこういうカタチで微力ながら社会のお役にたっていることは何よりも嬉しいものです。

ワークセンターフロンティアで今後もいろいろな機会を通じて社会とのよりよいお付き合いができることを願います。

(文: ワークセンターフロンティア利用者 米山修二)



嬉しいメッセージいただきました！



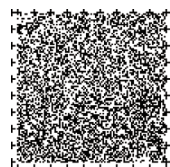
皆様、こんにちは。(株)シー・アンド・エヌネクストの小谷と申します。

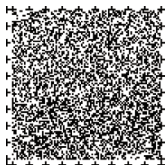
当社は”建設業密着サービス業”を目指して、たくさんの建設業の皆様の困りごと、ご要望にお応えするべく様々なサービスを展開しております。そのような活動の中で『地域の為に仕事をしている建設業の魅力を分かりやすくアピールしたい!!』という我々の想いがあり、その想いを地域の皆様に向けて具体的に表現できる看板や名刺等のデザインを制作できる仲間を探していた時に巡り合ったのがフロンティアの皆様でした。

建設業の皆様からご依頼いただき、当社が企画提案を行い、フロンティアさんにデザイン制作をお願いする。フロンティアさんとのお付き合いはもう4、5年になるでしょうか。修正、やり直しが発生する場合でも、納得のいくまで要望に応じていただき、いつも高いクオリティで納品していただいています。この高いクオリティがあるからこそ、多くのお客様にリピーターになっていただけるのだと考えています。

お客様に喜んでいただき、米山修二さんのように制作者の方々にもやりがいを感じていただく。そして、そのことが私自身の仕事の喜びにもなっています。このような企画、仕事が続いていけるよう、益々PRすることが私の役割と考えています。その為にフロンティアの皆様が少々忙しくなることはご容赦ください(笑)

引き続き、宜しくお願い申し上げます。(株式会社シー・アンド・エヌネクスト 小谷 泰樹)





苦情の解決対応について

平成30年の間に苦情件数は0件でした。

今後も引き続き、意見箱の設置や利用者会議の開催、保護者アンケートの実施等を通じて、寄せられたご意見ご要望を大切にしてサービスの向上に努めてまいります。

(山本順久)

性教育についての研修会に行ってきました。(前編)

先日出雲養護学校で「知的・発達障害児への性教育 産婦人科医の立場から」という研修があり、大田市立病院産婦人科榎原研氏の話聞いてきました。

子どもたちが成長していく中で、性教育は必要不可欠なものです。私たち支援者も子どもたちにどのように伝えていけばよいのかを考えています。今回の研修では幼少期の話しは無かったのですが、性教育については幼少期からの関わりが必要な子どもさんもおられます。子どもたちひとりひとり、いつ、だれが、どのようなタイミングで話しをしたらよいかは違ってきます。その時に、親としてまたは支援者として真剣に子どもたちと向き合うことが必要であり、人としてごくあたりまえなこととして話をしていくことが大切だと感じています。

今回の研修は前もって質問内容を保護者の方々に訊いていたのでQ & Aという形で行なわれましたので、いくつか紹介させていただきます。

Q 1 : 子どもと一緒に風呂に入るのは何歳位までが良いのか。また、性器の洗い方について

A 1 : 年齢ではなく、本児が分かりやすい時期。(例えば、性器に毛が生えたら、6年生になるから等、本児が理解しやすい時期を設定してあげる。) 洗い方については「大人になるから洗い方を覚えよう」と入浴場面でない所で話しかけます。すりこぎ棒のようなものを使って「今から正しいおちんちんの洗い方をおしえるからね」といって教えてあげると恥ずかしさも軽減すると思います。

→ 子どもも毎日性器を洗っていると射精のやり方をマスターできるようになることが多い。あくまでも自慰行為(※下記参照)を教えるのではなく正しい性器の洗い方を教えます。

Q 2 : 人前で性器を触ったりするから心配。

A 2-1 : TP0 を教える。(いけないのは人前で触ること。) A 2-2 : 周りの反応を楽しむ誤学習もある。

→ 自慰行為が直接性犯罪につながることはありません。マナーを守ってすることには口出しは不要。不潔でなければ身体への害もありません。

ただし、本やインターネットなどから得る情報には注意。現実と仮想空間の区別がつきにくくなる場合もある。

※自慰行為について(男児)

- ・思春期になれば健康的な発達過程。(一般男子であれば18才までに90%以上が経験済み)
- ・自分で心地よい部位を探し、その感触を楽しみ満足感を得る。
- ・母親への依存から脱却を助ける。
- ・性衝動を満足させて、性的緊張を開放するとともに、不安や攻撃性を緩和する。

(文責：相談支援専門員 景山一優)



◆研修会の後編は次号に掲載します。

よろしくお願いします！～新人職員の紹介～

11月からハートピア出雲デイセンターに勤務しております看護師の多久田紀美です。

病院での勤務経験がなく、利用者さんの対応など戸惑うことの多い毎日ですが、スタッフの皆様の優しさに助けられながら二ヶ月半が過ぎました。

利用者さんの笑顔がひとつでも多く見られるような関わりができればいいと思っています。

今後共、よろしくお願い致します。



多久田紀美



竹田茜子

10月からハートピア出雲スマイルに勤務しております保育士の竹田茜子と申します。

明るい雰囲気の中で可愛い子ども達と日々楽しく過ごさせて頂いています。

皆様の役に立てますようにと頑張っています。

これからどうぞよろしくお願い致します。

編集後記

◆昨年は豪雨や地震、台風などの自然災害が多い年でした。天災は人知を超えた災いなので努力でおさえることは無理ですけど、「人災」は人がつくりだすもの。昨年はスポーツ界の指導者による相次ぐ不祥事、そして我々当事者にとって残念な出来事に中央省庁による障害者雇用率の水増し問題がありました。まさに人災と呼んでもいいのではないのでしょうか。◆今年の年賀状から一部の知人にはLINEで済ませました。味気ないと思う反面、簡単で便利だなと思いました。幸多き一年に！【編集長 米山】

